

渡辺 孝寿

村上農業普及指導センター

### 「岩船米」を中心に村上地域の食材をPR

村上

県内では知られた存在の「岩船米」も、全国的に見れば知名度は高くないのが現状です。そこで、JA主催の米卸を招いた求評懇談会や村上市が主催する農業活性化検討会において、情報発信を強化すべきとの意見が出されていました。普及指導センターでは、この課題に対応するため、村上市と連携し、PR冊子の作成やホームページによる情報発信に取り組みようと村上市食材PRプロジェクトを立ち上げました。

プロジェクトは、「岩船米」をメインに地域の特色ある食材を含め、岩船地域をまるごとPRすることとしています。メンバーには若手農業者を始め、料理研究家や地元料亭の料理長など8人を公募し、JA、市、振興局がバックアップとして加わりました。

冊子は振興局が、ホームページは市が主体となり作成しました。作成内容を一体的なものとする中で、コンセプトやロゴマーク、ストーリー等の検討を行いました。

11月に完成した冊子は、販促活動に役立ててもらうため、管内のJA、農業法人に配布しています。また、県内外の岩船米を取り扱う業者や旅館・飲食店等にも配布しています。

ホームページは12月に開設され、冊子には載せきれない旬の情報や岩船米が食べられるお店など多様な情報を発信しています。

今後も「食材の宝庫村上」をPRし、知名度アップと首都圏への販路拡大に向けた仕組みづくりを進める予定です。



マスコミへ冊子のお披露目会



作成した岩船米PR冊子

相田 信幸

新発田農業普及指導センター

### ぶどう『短梢せん定・アーチ栽培』技術の推進

新発田

新発田地域では、栽培管理が効率的でせん定作業が容易なぶどう『短梢せん定・アーチ栽培』技術の普及・拡大を推進しています。既存ぶどう産地の生産者だけでなく、新たな果樹栽培者の拡大のため、育苗ハウスを活用した稲作農家も対象にしています。

8月4日及び11月24日には、既存産地の生産者を対象に、ぶどう短梢せん定研修会を、園芸研究センター試験ほ場及び聖籠町現地ほ場で開催しました。

園芸研究センターでは、長梢せん定樹から短梢せん定への樹形改造や赤系新品種の試験状況、「シャインマスカット」の適正な着房量等を研修しました。また、聖籠町の現地ほ場では、短梢せん定を効率化するために、安定生産を左右する重要なせん定作業においてもパートさんに一部依頼し、仕上げせん定のみを園主が行うという、作業労力を軽減する事例等を紹介していただきました。

稲作農家の新たなぶどう栽培者については、1人1人のほ場を巡回しながら、種無し処理時期の判断や房づくり・摘粒といった細かな栽培技術のレベルアップに努め、個別指導を中心に普及活動を行いました。

このような活動により、既存産地では短梢せん定技術を活用した新品種が導入され、ぶどうを新規導入した稲作農家では安定生産が行われるようになりました。

普及指導センターでは、既存産地だけではなく、稲作経営体の体質強化や女性農業者等の直売による所得向上に役立つよう、これからも導入支援していきます。



ぶどう短梢せん定研修会（8月4日）



ぶどう短梢せん定研修会（11月24日）



育苗ハウスを活用したぶどうアーチ栽培